

「希望郷いわて」

農業・農村の復興に向けて

■岩手県沿岸広域振興局宮古農林振興センター・大船渡農林振興センター農村整備室
■農林水産部農村計画課・農村建設課

岩手県では、平成26年度を「本格復興推進年」と位置づけ、「なりわい」の再生が実感できるような復興を強力に推進しています。

これまで農地・農業用施設の復旧状況は、平成23年度から、「希望郷いわて」農業・農村の復興に向けて」と題して紹介してきました。

本号では、今春から営農を再開した「陸前高田市小友地区」「山田町小谷鳥地区」の様子と、他県からの応援職員の活躍を紹介します。

1 陸前高田市小友地区



小友地区は、災害復旧と併せて行うほ場整備地区のうち、県内最大の92haの受益面積を有しています。

地震に伴い地盤が沈下したことから、今までどおりの自然排水を行うために大規模な盛土(約96万m³)を行いました。事業実施に当たっては、平成25年6月に工事説明会を開始し、工事に着手。平成26年3月には、地域の中心経営体として「農事組合法人サンファーム小友」が設立され、営農体制が整いました。

その後、大区画に整備された86haの広大な農

地でスムーズに作業を行うため、耕起は岩手県農業公社、代かき・田植えは「サンファーム小友」という分担により、このたび無事、営農を再開することができました。

強力なリーダーシップで地域をまとめたサンファーム小友の石川組合長さんはこう振り返ります。

「感謝と感激。壊滅的に被災した農地が復旧できるのだろうかと思っていたが、立派なほ場ができた。まだ仮設住宅から出られない方々に、昔に戻った、という安心感を与えた。これは大きな効果です。

他県から派遣応援にきてくれた皆様は、被災後、関係者がどこに住んでいるかわからない中、事業説明、相続調査等々、頑張っていたいただいた感謝の一言に尽きます。」

5月14日には、岩手県農業研究センター等の指導により、作業の省力化や生産コストの低減を目指して、専用播種機やヘリコプターによる湛水直播栽培の実証試験が開始されました。

大区画に生まれ変わったほ場での更なる効率化に、地元も大いに期待を寄せています。

今後は、収量確保のため肥培管理や防除対策などの栽培管理技術の検討が行われる予定です。



復旧前



復旧後 田植え



小友地区の田植えの様子と石川組合長さんのお話は「いわて希望チャンネル(第7回)」で放送されました。

ユーチューブで閲覧可能です。是非ご覧ください！

いわて希望チャンネル で検索！

2 山田町小谷鳥地区



小谷鳥地区の復旧した農地において、5月25～26日に田植えが行われました。

うほ場整備地区では、初めての営農再開です。

地域の中心経営体である「農事組合法人エコファーム山田」は、大区画ほ場での作業は初めてであり、当初は代かきや田植えの段取りに苦労したものの、約1.2haの作付けを行うことができました。

町内の他地区でもほ場整備が着々と進められており、宮古農業改良普及センターでは、平成27年度に本格化する大区画ほ場での営農に備えるため、本地区においてパイプライン用水による流し込み追肥や高窒素鶏糞ペレット肥料による低コスト生産実証等を行い、大区画ほ場の効果が最大限に発揮されるような営農支援を行っています。

今後も、ほ場整備事業と営農支援を一体的に推進し、農業者の新たな経営展開や担い手の育成につなげていきたいと考えています。



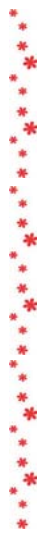
小谷鳥地区における田植え

3 応援職員の活躍

宮古農林振興センターと大船渡農林振興センター農村整備室では12道府県から23名の精鋭の皆さんに応援をいただき、農地や海岸堤防の復旧・整備を進めています。

「本格復興推進年」である本年度は、業務量、予算ともピークを迎えることから、応援職員の皆さんのお力添えが不可欠です。慣れない土地での業務にもかかわらず、持ち前の技術力と行動力を存分に発揮し、復興を力強く押し進めています。

その中のお一人、「陸前高田市小友地区」を担当する植田友浩さん（和歌山県から派遣）に、復興への思いを聞いてみました。



「平成26年4月から岩手県でお世話になっています。派遣元の和歌山県では東日本大震災と同年の8月に発生した台風12号災害（紀伊半島大水害）の復旧業務を担当しておりました。

その経験を活かしながら岩手県の復興のお手伝いをしつつ、来るべき東南海・南海地震に備え、岩手県職員さんの経験や技術、ノウハウを勉強させてもらおうと派遣を希望した次第です。過疎化、高齢化が進むなか、ほ場の大区画化や法人化は必須であり、小友地区の取組は単なる災害復旧にとどまらない、ピンチをチャンス

に変えるものである、ということや営農再開に伴い、ひしひしと感じているところです。

これからも復旧復興に向けみんなと一緒に頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。」

復旧・復興に奮闘する職員の皆さんに「応援」よろしくお願ひします。



完成検査で工事内容を説明する植田さん（右）

職員を派遣いただいている道府県

- 宮古農林振興センターへ派遣
- 大船渡農林振興センター農村整備室へ派遣

本県の被災農地等の復旧・復興状況を情報発信するフェイスブック「いわてNN復興だより」を開設しました！・・・「いいね！」をお願いします！！

<https://www.facebook.com/iwatennfukku>